

平成22年2月4日

## 鞠智城跡出土仏像レプリカの常設展示の開始について

鞠智城跡は、東アジア情勢が緊迫した7世紀後半に、大和朝廷によって築かれた古代山城で、国の歴史書にも記載された全国有数の重要遺跡として、平成16年2月27日に国史跡として指定されています。現在は、今以上、より多くの人々に知ってもらい、利活用していただくため、国営公園化に向けた取り組みを行っております。

さて、このたび、平成20年10月に国史跡「鞠智城跡」・貯水池跡池尻部の発掘調査により、国内で初めて出土した百済系菩薩立像のレプリカが完成いたしましたので、下記のとおり歴史公園鞠智城内にあるガイダンス施設「温故創生館」で常設展示することとします。

### 記

- 1 **展示物** 百済系菩薩立像の実寸大レプリカ  
(レプリカ完成日：平成21年12月22日)
- 2 **日時** 平成22年2月12日(金) 午前9時30分から常設展示開始  
【温故創生館の御案内】  
開館時間 9時30分～17時15分  
(ただし入館は、16時45分まで)  
休館日 月曜日。但し、祝日の場合は、その翌日  
12月25日～1月4日
- 3 **場所** 歴史公園鞠智城・温故創生館 1階展示室
- 4 **入館料** 無料
- 5 **その他** 常設展示開始を記念して、学芸員による仏像解説を実施。  
(1) 日程：平成22年2月12日・13日(2日間)  
(2) 時間：①午前11時～ ②午後2時～ 計2回  
(30分程度)  
(3) 場所：温故創生館 1F展示室

### 【百済系菩薩立像】

①出土日 平成20年10月23日

②出土場所 貯水池跡池尻部

③計測値 全高12.7cm（像高9.7cm）、全幅3.0cm

④特徴 小型の銅造菩薩立像で、頭部に三面宝冠を戴き、丸みを帯びた穏やかな表情、肩まで垂らした垂髪（すいはつ）、両肩から足下まで垂らした天衣（てんね）などがよく表現され、下部に太めの柄（ほぞ）を造り出すことを特徴とする。横から見ると、優雅なS字曲線を描く。両手を腹部で合わせ、胸元に持物（じぶつ）を捧持する姿などから、7世紀後半の百済系菩薩立像と考えられています。

⑤その他 天智天皇4年（665）に百済の亡命高官の指導のもと大野城、基肆城を築城したとする『日本書紀』の記述を補完する貴重な発見で、台付の舍利容器を思わせる持物を捧持する姿から、百済仏に作例の多い宝珠捧持形菩薩との関連が指摘されています。



（正面）

（側面）

（背面）

※出土当時の写真

#### お問い合わせ先

熊本県立装飾古墳館分館

「歴史公園鞠智城・温故創生館」

担当 矢野・木村

〒861-0425

熊本県山鹿市菊鹿町米原 443-1

TEL 0968-48-3178・FAX 0968-48-3697